

和光市における市民参加の評価

1. 前回までの会議のまとめ

はじめに

- ・ 条例施行から20年経過。
- ・ 施行当初に比べて市民参加が浸透してきている。

現状

- ・ 条例上で定める1個以上の市民参加を行うことができるようになってきている。
- ・ 既存の手法は広く周知された。
- ・ 社会情勢の変化により、オンラインツールなどを活用した新しい手法の活用が行われるようになった。
- ・ あまり活用されていない手法がある。

課題

- ・ 現代に合わせたオンラインツールの活用方法があることを周知することが必要。
- ・ 職員向けマニュアルは、20年の変化に対応した説明や新しい手法についての記載に不足がある。
- ・ 初めて市民参加に取り組む職員でも簡単に理解できるマニュアルを用意する必要がある。
- ・ 使われていない手法は、マニュアルでの活用方法の説明不足がないかの確認が必要。
- ・ 社会情勢の変化や市民参加がある程度浸透した現在では、形式的になっている点や1個以上では十分ではないと感じられる点がある。

おわりに

- ・ より効果的に市民参加を行っていくことが求められる段階に入ってきている。
- ・ 該当する対象者に適切に届くように効果的に市民参加を行っていくことが必要。
- ・ 子どもを対象としたワークショップなど市民参加の新たな発展を検討する。
- ・ 使われていない手法は、使いたい時にいつでも活用できるように整備しておく必要がある。

2. 事務局から提示した問題点と対応方法

	条例改正	市民参加の手引きの改定	マニュアルの改定	その他(運用等)	
SNSを活用した新しい手法の取扱い			○	○	
説明会・意見交換会で出た意見等の取扱い		○	○	○	
意見の取り入れ可能な時期での適切な市民参加の運用		○	○	○	
好事例の紹介			○	○	好事例紹介を研修などで行う
使われていない市民参加の扱い(住民投票、公聴会等)				○	存在することで必要な時に活用可能、現状維持
共同での市民参加(分野の近い事業)			○	○	